

平成21年度大津市事務事業評価（二次評価）事業仕分け結果

班 別	第1班	時 間	11:24~12:08
事業番号	3	所管部課名	健康保険部 保険年金課
事業名	葛川診療所管理運営事業		
事業仕分け結果	(4) 市実施 内容・規模見直し		
内 訳	(1) 不要	1名	
	(2) 国及び県実施	-	
	(3) 市実施 現行通り	-	
	(4) 市実施 内容・規模見直し	4名	
	(5) 市実施 民間委託	-	
	(6) 民営化(NPO、地域団体含む)	-	
<p>【事業仕分け判定に係る意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・へき地医療が不要ということではないが、巡回・出張診療等の積極的な代替案を示していただき拠点施設としての利用でよい。 ・診療所があれば全て安心という安易な発想でなく、住民ニーズを把握して、代替案を示すべきである。 ・高齢化率が高くなるなか、市民ニーズは残るので、代替策などの段階的措置を構すべきである。 ・重要なのは住民の要望を把握したうえで市より方針を示すべきである。 			

事業仕分け発言要旨	
コーディネーター・評価者	事業説明者・補助者
	・事業概要説明（省略）
<p>(コーディネーター)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在勤務する医師の年齢や勤続年数は。 ・へき地医療に経済効率の考えはそぐわないと思うが、一日3、4人の患者なら、開店休業状況。これ以外の代替策を検討したことがあるか。 ・地域住民に診療所に対する意見聴取を行ったか。 ・診療所の利用実態を調べるとともに、地元の意向把握が重要。地区の昼間人口等、居住状況を勘案してこの事業を担当部局としてどうしたいのかを明確にすべき。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現在81歳。平成2年から勤務している。 ・保険診療以外の健診事業、予防接種も行っている。また、近隣施設の葛川少年自然の家の医療も担っている。森林キャンプ村の利用もある。今後の方向性としてへき地医療と経営面を天秤にかけにくい。また、議会では設備を充実して活用を図るという意見があった。 ・住民に対する意識調査は行っていない。
	-

<p>・この地区の患者が診療科目からして全てこの診療所だけでまかなえているのか。近隣の通院患者の状況を把握しているか。また、実利用人数は把握しているか。</p>	<p>・診療科目は内科、外科。高齢化が進んでいる地区。高齢者が近隣の病院への通院も難しく近くに診療所があることは安心である。</p> <p>・患者は高血圧での受診が多く、また、学区内には薬局がなく、ここで処方できる利便性もある。</p> <p>・実利用は、平成5年が97名、平成20年が53名である。</p>
<p>・現在の医師の着任当初は今の倍程度の利用があるが、それが半減した要因は。</p>	<p>・日赤志賀病院が開業した影響が考えられる。</p>
<p>・他に代替手段はないのか。私の住むところでも車で20分くらい。それでも必要性はあると考えるか。</p>	<p>・近隣に診療所がある安心感は大事である。全国的な医師不足もあり後継者の問題、民間での開業は難しいと思われる。</p>
<p>・この赤字の状況を考えて、民間での輸送補助等の施策や、訪問看護・介護等の連携で拠点病院への通院も考えられる。今の段階で今後の方針を示すべきではないか。</p>	<p>・現在の在宅ねたきり老人は1人。地域の事情として在宅介護が難しい実情ではあるけれども、在宅医療・在宅介護が重視されており、地域の医療・介護の拠点として活用できればと思っている。</p>
<p>・担当課としてどうしたいのかよくわからない。残したいのか、残したくないのかがよく見えない。</p>	<p>—</p>
<p>・廃止した時の影響として、地元で医療機関がなくなるとある。安心施設としての診療所であるなら、代替策としての安心提供策のシュミレーションが必要である。</p>	<p>—</p>
<p>(コーディネーター)</p> <p>・まだ、継続かどうかを考えていないのではないか。</p>	<p>—</p>
<p>・この勤務体制を見ると、医師住宅の必要性、なぜ医師、看護師が常駐するべきかがわからない。</p>	<p>・前任医師は居住していた。後任医師は京都市内なので20分で車通勤できること等から勤務体制が決まった。</p> <p>・少年自然の家のために夜間待機もしている。</p>
<p>・急患対応もしているのか。</p>	<p>・勤務時間からして、現実に対応できていない。少年自然の家の夜間対応のみで、年間の利用計画で対応している。</p>
<p>・歯科利用はできないが、それをどうしているのか。</p>	<p>・この地区には週2日の歯科診療施設がある。</p>
<p>・ここで全て対応できるとは思えない。医師・看護師が出張して一時対応する方が良いのではないか。往診体制の充実等も考えられるのではないか。</p>	<p>・県下のへき地診療所のなかには、病院よりスタッフが派遣される方法を取っておられるところもある。</p>

・朽木の診療所は1日40～50人。また、高島総合病院の医師が往診し、それで基本的には機能している。そこから思えば、訪問看護、介護等で地元のニーズを満足させればよいのではないか。すぐに閉鎖すべきではないが、代替策の提案で満足してもらえと思う。

—